

平常展

# 仏教の思想と文化

# インドから 日本へ



2013年  
第1期 7月13日(土) ~ 2013年 8月9日(金)

2013年  
第2期 11月9日(土) ~ 2014年 2月2日(日)

2014年  
第3期 3月1日(土) ~ 2014年 3月30日(日)

※作品保護のため、平常展会期中(第1~3期)に展示替えを行います。

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日 ただし1/14(火)は開館)、  
年末年始(12/24~1/8)(詳細はHP等でご確認ください)

開館時間: 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

龍谷大学

龍谷ミュージアム

RYUKOKU MUSEUM

平常展

# 仏教の思想と文化

# インドから日本へ

## 展示構成

### 第1部 アジアの仏教

インドで仏教が誕生し、アジア全域に広まる

- ・仏教誕生…釈尊（ガウタマ・ブッダ）の生涯とその教え
- ・仏教の広がり…インド、中央アジア、東南アジア、東アジア
- ・多様な仏教…出家修行者と在家信者が織りなす多様な仏教世界

### 第2部 日本の仏教

日本へ仏教が伝来し、日本社会に根付く

- ・仏教伝来…仏教伝来にかかわる史実と、伝承上の仏教伝来
- ・国家と仏教…国家政策としての仏教導入と貴族社会への浸透
- ・仏教文化の円熟と日本の展開…日本国内での仏教の歩みの上に新たに醸成され、幅広い階層に受け入れられていった仏教の諸相



#### 九字名号

南北朝～室町時代 龍谷大学

名号の全体から六十数条におよぶ光芒を放つ形式は古様で、書体は、親鸞在世中の作と推測される愛知・妙源寺の三幅本光明本尊の中幅などに似る。九字名号の優れた古例のひとつ。江戸時代には親鸞真筆と伝えられていた。

#### 木造 地藏菩薩坐像

鎌倉時代 滋賀・園城寺

均衡のとれた頭体の造形、穏やかでリズムミカルな衣の表現などに、作者の力量がうかがえる。唐院長日護摩堂に地藏菩薩として伝来したが、十禅師など僧形の神像であった可能性も指摘されている。



#### 両界曼荼羅

室町時代 京都・永観堂禅林寺

「大日経」に基づく胎藏曼荼羅と、「金剛頂経」に基づく金剛界曼荼羅からなり、密教の最上の仏である大日如来を中心に、密教の世界観を表現する。日本で最も流布した空海請来の現図曼荼羅形式で、地文に截金、諸尊の装身具等に箔をおくなど本格的な作画をみせる。※写真は胎藏曼荼羅

#### 大般若経 卷第九十一（薬師寺経）

奈良時代 奈良・薬師寺

褐麻紙にいかにも天平風の雄渾な書体で書写され、伝承筆者の名をとって「魚養経（ななかいぎょう）」とも称される。「大般若経」600巻を書写した薬師寺伝来の写経のうちの1巻。

#### 四面仏坐像 マトラー

2世紀 龍谷大学

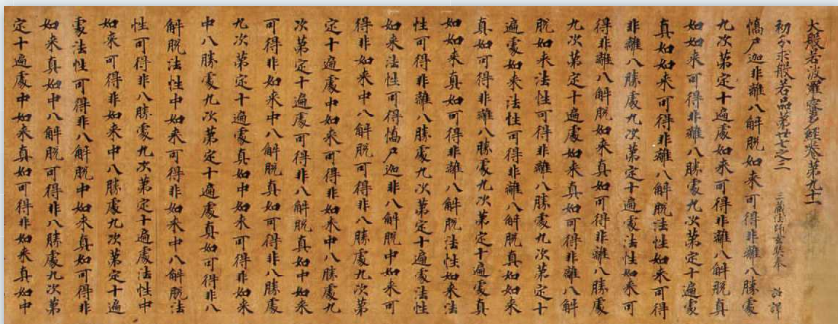
四面にそれぞれ仏坐像を高浮雕りで表す。坐像はほぼ同じ姿で、右手の掌を外に向けて施無畏印をとり、左手は膝上におく。体軀は遅く、大衣を偏袒右肩にして上半身に纏うが、薄く透けて裸のように見える。この外形から、角柱の柱頭部であったと考えられる。



#### 仏伝浮雕「梵天勧請」

1～2世紀 龍谷大学

釈尊の生涯を表した浮雕で、説法を躊躇する釈尊に、梵天をはじめとする神々が教えを説くことを懇願する「梵天勧請」の場面。全体にインド的な要素が強く認められる浮雕で、スワート地域で出土する独特の様式。



※作品保護のため、平常展会期中（第1～3期）に展示替えを行います。

## 今後の展覧会予定

### ■ 秋季特別展

「極楽へのいざないー練り供養をめぐる美術ー」 2013年9月7日(土)～10月20日(日)

### ■ 平常展

・第2期 2013年11月9日(土)～2014年2月2日(日)

・第3期 2014年3月1日(土)～3月30日(日)

## 平常展観覧料

一般 500円 (400円)

シニア・大学生 400円 (300円)

高校生 300円 (200円)

※( )は20名以上の団体料金 ※シニアは65歳以上

※中学生以下、身体障がい者手帳・療育手帳・戦傷病者手帳等の交付を受けている方およびその介護者1名は無料。

※特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

### 交通案内

- JR・近鉄・地下鉄烏丸線「京都」駅から徒歩約12分
- 地下鉄烏丸線「五条」駅から徒歩約10分
- 京都市バス（9・28・75系統）「西本願寺前」下車約2分



当館には専用の駐車場はございません。ご来場の際は、バスなどの公共交通機関をご利用下さい。



龍谷大学

# 龍谷ミュージアム

RYUKOKU MUSEUM

〒600-8399 京都市下京区堀川通下面下 (西本願寺前)  
TEL: 075-351-2500 FAX: 075-351-2577  
<http://museum.ryukoku.ac.jp>